

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>校是の「進取」「敬愛」「雄健」の具現化を図り、地域から信頼される質の高い教育を実践することにより、自分の頭で考え、人と協働し、新たな価値を創造する人を育成する。そのために、</p> <p>① 自ら学ぶ姿勢を有し、自ら高みに挑戦する生徒を育て、学力の伸長を図る。</p> <p>② 特別活動等により、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図る。</p> <p>③ 生徒、教職員、保護者が一体となって、教育内容の質の向上を図る。</p> <p>④ 学研都市の資源を活用しながら、社会の一員としての自覚を持った生徒を育成し、文化学術研究を実践する学校づくりを進める。</p>	<p>◇ 生徒一人ひとりが目的意識を持って進路実現を果たした。今後は主体的・自立的に学習し挑戦する生徒の育成に向け、さらに教育力の向上を図る必要がある。</p> <p>◇ 難関大学進学に向けた組織体制の確立や学習・進路指導の展開については、昨年度の取組状況を十分点検し、より効果的な在り方を検討する必要がある。</p> <p>◇ 学校行事の内容充実をはじめ、中・短期の海外留学や国際交流、ボランティア活動等、生徒の主体的な活動が定着しつつある。</p> <p>◇ 生徒・保護者アンケートに基づき、冷暖房の運用基準や部局活動時間を見直すとともに、トイレの洋式化や中庭改修等の学校施設整備に取り組んだ。今後は物心両面において安心して教育を受けられるための環境づくりに努める必要がある。</p> <p>◇ 日常的な校務の増加や複雑化・困難化が進み、生徒と向き合う時間の確保が課題となっている。学習指導や進学指導等に集中できるための業務の適正化や生産性の向上が必要である。</p>	<p>① 個に応じた学習内容の提供及び思考力・判断力・表現力を育成するための指導方法の工夫改善やICTの利活用等、学習指導の充実のための研究・実践を行う。</p> <p>② 難関大学進学に向けた組織体制を確立し、効果的な学習・進路指導を展開する。</p> <p>③ 4つの奨励（部活動、国際交流、ボランティア、コンテスト）を継続し、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。</p> <p>④ 校内連携の強化により、中高一貫教育の円滑な実施と計画的な準備を進める。</p> <p>⑤ 内外の評価を活用し、生徒一人一人を大切にし、個性や能力を伸ばせるよう、学習者起点による学校の魅力化を図る。</p> <p>⑥ ダイバーシティとワークライフバランスに係る具体的な取組を進める。</p>

平成30年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
教務部	学習指導の充実のための研究・実践を行う。	<p>I C Tを利活用した個に応じた学習内容の提供（アダプティブラーニング）について研究する。</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成につながる授業の実施に向けて、その指導方法の研究・実践を行う。</p> <p>中高一貫教育及び次期学習指導要領を見据えた教育課程の検討を行う。</p>
生徒指導部	<p>主体的な活動の充実を図る。</p> <p>中高一貫教育校としての系統的かつ組織的な指導を推進する。</p>	<p>部局勧誘立て看板を効率的に設置するとともに、中庭パフォーマンスを盛り上げるよう放送局との連携強化を図る。</p> <p>様々な取り組みや研修会（講習会）においては、実施の背景を明確にし、肯定的かつ積極的に取り組めるよう工夫する。</p> <p>生徒会を通じた行事において生徒が主体的に取り組めるよう、生徒の熱意に寄り添いながら丁寧な手順を踏まえ、計画的な指導を行う。</p> <p>学校行事等において地域連携を強化し、地域コラボ等の活動を活発にする。</p> <p>全教職員体制で生徒の状況を観察し適切な対応を行う。</p> <p>担任・教科担当との連携を密にし、生徒の心的変化を見逃さない。</p> <p>学齢に応じた重層的な指導をおこなう。また中学生と高校生が協同的な活動ができる環境を構築する。</p>
進路指導部	<p>個に応じた学習指導の充実を図る。</p> <p>難関大学進学に向けた学習指導・進路指導の研究・実践を行う。</p> <p>各種模擬試験データの共有と分析を行う。</p>	<p>土曜学習会や長期休業中の進学講習の内容を教科・学年と調整し、学習者起点の講座選択を実施する等個々の生徒のニーズに対応した、より効果的な学習指導を実践する。</p> <p>チーム・ガリレオでのICTを利用した学習について実践・研究を深め、生徒の実態に応じた学習指導法を工夫・改善し、学校全体の学習指導に広げる。</p> <p>難関大学進学に向けた学習集団（チーム・ガリレオ）を充実させ、主体的・自立的に学習に取り組む姿勢をもち、挑戦し学び続ける生徒を育成する。</p> <p>学年会や進路検討会をとおして3年学年団と連携をさらに深め、学習指導・進路指導の協働体制を強化する。</p> <p>各模擬試験データを進路指導部内で分析し、情報を教員間で共有化するとともに、部長会や教科主任会で今後の進路指導についての協議・提案を行う。</p> <p>FINEシステムやデジタルサービスの活用により、学級担任・教科担当者レベルでの分析を充実させ教員集団としての情報分析力を高める。</p>
保健部	<p>健康教育を充実させる。</p> <p>学校等欠席者・感染症情報システムを活用する。</p> <p>生徒の主体的な活動の充実を図る。</p>	<p>全学年で健康教育を実施する。</p> <p>収集したデータをもとに情報発信に努め、感染症等の未然防止のための取組を進める。</p> <p>保健委員会から、インフルエンザ等の感染症予防の取組をする。</p> <p>美化委員会の活動の情報発信を進めるとともに、校内美化の取組をする。</p>

平成30年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
図書部	図書委員の活動がより充実したものになるように活動内容を見直す。	「広報」班に図書館や他の班の活動を積極的に取材させ、図書委員会だより「F. I. B」を学期ごとに発行させる。
		「イベント」班を通じて、一般生徒の図書館に対するニーズを探り、魅力ある図書館づくりの一助とする。
	教科との連携を深め、授業での図書館利用と、教科に関連した図書の貸し出しを増加させる。	授業でより有効な図書館利用ができるように、教科との情報交換を密にする。
		新聞や教科内容に関連した新書を読ませるような仕掛けづくりを工夫する。
	読書活動を啓発し、生徒の目を広く社会に向けさせることにつなげる。	生徒や教職員による「ビブリオバトル」を実施し、府大会などの出場にもつなげる。 多様なテーマの展示を行うために、「1 b o x」コーナーの作成をさまざまな教科の教員に依頼する。
企画研究部	生徒・教員の人権教育の充実を図る。	教職員の人権教育研修会を適宜実施し、教職員の人権意識を高める機会を増やす。 生徒の人権意識を高め、地域の企業・団体等との連携強化や国際交流を通し、生徒自ら課題の発見・解決に取り組む活動を企画・実施する。
	ICTを積極的に利活用する。	ホームページを再構成し、動画など新たなツールを利用した情報発信を実施する。
	事務部	校内の安全・安心・美化を推進する。
	中高一貫教育校の円滑な校内運営を図る。	各教科、領域との調整、協議を深め、物品購入、整備を行う。
	就学の保障を充実させる。	奨学金等の説明会を開催し、丁寧な対応をもって就学援助を助成する。 支援の充実に向け、生徒の実態を把握し、援助対応をする。 企画研究部人権担当と連携し、各種奨学金を活用する。
第1学年部	礼を重んじ、規律を守り、自立した高校生となれるよう、正しい生活習慣を身につけさせる。	規則正しい生活習慣の確立のために、未来手帳を積極的に利用して先を見通す意識を持たせる。 挨拶を励行し、高校生として有るべき姿を、折に触れて生徒に語りかける。
	主体的に学習に取り組み、より高い目標に向かって日々学習に取り組む習慣を身につけさせる。	授業を大切にさせると共に、模擬テストを利用して発展的な学習を自ら行う手助けをする。 進路指導部と連携して、自分の進路について考える機会を設けると共に、毎学期1度は面談を行い、その意識を高めさせる。
	学校行事に積極的に参加することで、学校生活を充実させる。	文化祭、体育祭を初めとした学校行事への主体的な参加を促し、成就感・達成感を味わわせる。 学校行事や日々の生活を通して、お互いを高め合える仲間作りをさせる。

平成30年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
第2学年部	社会に通じる人として、規範意識の醸成と他者を思いやる心を養う。	集団の中の一人として自覚を持ち、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。
		挨拶の励行や、相手の立場を考え思いやりのある行動をさせる。
	進路目標の決定と、希望進路実現に向かって学び続ける学習習慣を身につけさせる。	面談を通じて、模試の結果などを活用し、個々の目標を決定させる。
		他分掌との連携を行い、LHRを通じて主体的に学習に取り組む姿勢を意識させる。
第3学年部	一人一人の希望進路の実現を図る。	面談を各学期に1回以上行い、個に応じた指導により希望進路の実現に向けサポートする。
		学年全体で個々の希望進路を共有し、担任、進路指導部、教科担当で連携する。
	学習指導を充実させ、個に応じた学習内容を提供する。	授業内で個に応じた学習内容の提供をし、学習指導の充実を図る。
		ガリレオ講座を設置し、難関大学に向けた効果的な学習・進路指導を展開する。
サイエンス リサーチ科	最高学年としての自覚を持ち、自立的に行動できる、人間性豊かな生徒を育てる。	社会に必要なマナーや礼儀を身につけさせるとともに、他者を思いやる心の大切さを説く。
		学校行事を通して、企画力、コミュニケーション能力、人とつながる力を身につける。
		教科主任を中心に各教科と連絡を密にとり、全校体制で取り組む。
	サイエンス I・II・研究を、より生徒の主体的な探究活動として後押しし、探究内容のレベルアップを図る。	大学や関西文化学術研究都市の研究施設等との連携を図り、より深い取組の内容とする。
附属中学校		探究活動の成果を研究会や学会等の外部の場で発表する。
		学年の垣根を越えた交流を積極的に持ち、学び合いの効果等も活用し、主体的な探究活動を後押しする。
	学習指導の充実を図る。	主体的で対話的な深い学び、ICT機器を活用した効果的な学習方法の研究を行い、授業実践を地域・保護者に公開する。
		学習指導要領改訂を見据えた教育課程の検討・改善を行う。
附属中学校	生徒の主体性を育む取組を充実させる。	関西学術研究都市を中心に外部機関と連携を取り、学校外での生徒の新たな活動の場を設ける。
		学校行事などの取組計画を具体化して実践し、その検証結果を次年度の計画に活かす。
		道徳の指導内容の研究を行う。
		各部における中学校に関する校務分担を整理し、校務の円滑な運営を行う。
附属中学校	校務の円滑な運営を行う。	中学校担当者会を毎週開催し、中期的な計画を共有しながら校務を進める。
		ICTを活用した校内情報共有システムを活用して情報交流を行い、校務の効率化を行う。

平成30年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
国語科	生徒の幅広いニーズに対応するため、組織的な教材研究・指導法研究を行い、授業を充実させる。	クラス・個人の実態を把握し、教材・課題ごとに、何に重点を置いて指導するのかを担当者で共有し、教員間の連携を密にして指導を行う。 模擬試験等の結果を分析し、生徒の持つ課題を明確にして指導を行う。
	生徒の主体的な学習を促し、難関大進学も視野に入れて学力を向上させる。	基礎的な国語力を定着させるとともに、生徒の知的好奇心を高める授業を展開し、主体的な学習に導く。 個々の教員が難関大学等の入試問題を研究し、教科会議等を利用して成果を共有して、指導に生かす。
	読書習慣を定着させ、様々な文章に触れる機会を設け、生徒の視野を広げる。	授業で図書館を利用する。図書館を活用できる課題を設定する。 授業で扱った作品の作者に関連した書籍を紹介する、ピブリオバトルを授業に取り入れるなどして、生徒の読書の幅を広げる。
地歴・公民科	多角的な評価の在り方について検討する。	世界史A・日本史Aにおける主体的・対話的学びの評価方法について検討し、規準を策定して教科で共有できるものにする。 あらゆる生徒の主体的・対話的な学びの活動を多角的に評価に繋げることのできるシステムを検討する。
	附属中学校の教育課程について検証・改善を行う。	附属中学校において実施された教育課程について随時検証し、臨機応変に対応していくとともに、次年度以降に向けて改善の方策を考える。 附属中学校の教育課程について、今年度の状況も踏まえながら、高校の指導内容との整理・統合を図る。
	新しい学習指導要領や大学新入試を踏まえた授業改善を行う。	新入試の傾向を教科会議で分析・共有し、指導内容を検討する機会を学期ごとに設ける。 進路指導に際して、生徒の志望を踏まえて、個に応じた指導を推進する。 ICTを活用した授業の実践を推進し、実践内容を共有、検討する機会を学期ごとに設ける。
数学科	個々の数学力を高める指導方法を確立する。	個に応じた適切な学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、知的好奇心をくすぐるなど、個々の数学力がより向上するような高度で格調高い授業を展開する。 希望進路に応じた課題設定を行うことで、計算力及び論理的思考力、記述力を養い、希望進路が実現できる数学力を培う。
	数学を楽しみ探究する精神を育成する。	効果的にICTを用いることで、個々の生徒の数学力が向上するような教材及び主体的に授業に参加できる教材の開発を行う。 京都・大阪数学コンテストを始めとするコンテスト及び数学検定等へ生徒が主体的かつ積極的に参加するような学習指導や、数学の魅力・面白さが伝わる仕掛けを行う。
	中高一貫を見通した指導体制の充実及び教科指導力を向上させる。	6年間を見通した授業の進度及び指導方法について、同じ講座を担当する教員が交流する場を週1回以上設定するとともに、相互に授業見学を行うなど開かれた授業を目指す。 個々の教員が難関大学を中心とした大学別及び分野別の入試問題研究を行い、その成果を教科で共有する場を適宜設定し、難関大学進学に向けた進路指導に活用する。

平成30年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
理科	個々並びに組織的な教科指導を向上する。	中高一貫教育の中高6年間の教育課程を実践し、組織的な指導体制の構築をはかる。
		サイエンスの活動や附属中学校におけるダ・ヴィンチの取組、コンテスト等への参加を通して、地域の企業や大学とのつながりを生徒自ら開拓し、主体的に学ぼうとする姿勢を身につけさせる。
		科目主担当を中心にして生徒学力や模擬試験等の課題を担当者間で共有し、教材や指導法などを改善し、進学指導の向上を図る。
	新学習指導要領に向けたICT活用の充実を図る。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に効果的なICT活用を進め、情報を教科内で共有する。 各分掌・事務部などと連携して、効率的にICT環境整備を進める。
保健体育科	卒業後も豊かなスポーツライフを実現する資質を育てる。	自己の体力の状況を把握し、体力向上の方策を考え実践させる。 運動の場面で、公正、協力、責任、参画に対する意欲を高める態度を養う。
	現代における健康課題について知識、理解を深める。	課題学習の研究を進めるにあたり、現代における健康課題を幅広く見つける視点を養う。 薬物乱用について正しい知識を身につけ、適切な行動をとることができる態度を養う。
	芸術科	一般教養としての芸術の基礎・基本を把握させ、芸術を追究する態度を育てる。
鑑賞や制作・発表を通して、幅広い芸術の表現方法について理解を深め、芸術を追究する態度を育てる。		
表現や鑑賞の学習を通して、多様な芸術についての見方・考え方・とらえ方（思考力・判断力・表現力）を学び、芸術を愛好する心情を育てる。		
基本的な表現技法、演奏技能を育てる。		基礎・基本的内容の整理と多様な表現について研究し、技能を育てる方法について研究を深める。
		日本の伝統的な芸術と西洋の伝統的な芸術の類似点や相違点を感じ、自ら表現することができる力を養う。
		言語活動の拡充を図り、自らの言葉で諸芸術を批評できる心情を育てる。
よりよい授業に向けて教材開発・研究を行う。		研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究し、授業改善に努める。
	多角的視野に立脚したアプローチで学習者の知的好奇心に迫る授業に努める。 多様な芸術について理解を深めさせるための鑑賞教材を研究し、その充実に努める。	

平成30年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
英語科	基礎学力を定着させ、希望進路の実現に向けて生徒に学力の伸長を実感させる。	特に初期の段階で学習の仕方を具体的に指導し、適切なレベル・量の課題と小テストを与えながら、授業や家庭学習に取り組ませる。
		同科目の担当者間の連携を密にし、どのクラス・講座においても教材や活動等を可能な限りそろえて、学年全体のレベル（模試やGTECの平均点偏差値等）をアップさせる。
		生徒個々のレベルと目標に応じた指導をより効果的にするために、授業内容を定期的に見直しつつ、個別指導を可能な限り取り入れる。
	英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	<p>授業に「読む」「聴く」「書く」「話す（やりとり・発表）」の4技能5領域を取り入れ、生徒が英語を使う量を増やし、後に英語が定着していくような指導案を工夫する。</p> <p>留学や海外の高校生との交流等、英語によるコミュニケーションを実践する機会に対する生徒の意欲を育てるように、team-teachingやペアワーク・グループワーク等を活用する。</p> <p>授業で扱った内容に対して「自分はどう思うのか」を常に意識させ、英語のスピーチやプレゼンテーションによって発表したり、英語で書いたりする機会を確保する。</p>
家庭科	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、よりよ生活の実現を目指す。	実践的・体験的な学習活動を通して、知識や技術の定着を行う。
		家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を通して課題を解決する力を養う。
		家庭や地域での実践活動や年間を通した継続的な実践活動を行う。
	中高一貫教育の円滑な実施と6年間を見通した指導の準備を進める。	<p>特に中学校についての研修を深める。</p> <p>他校や他教科の指導法から学ぶとともに、客観的な視点を大切にする。</p>
情報科	情報について科学的な見方や考え方を養い、活用できる知識や技術を身に修得させる。	情報の科学的理解と、情報の収集、分析、活用、発信等の実習を通して、問題の発見とその解決の方法を習得する。
		将来、必要とされるコンピュータリテラシーを習得させる。また、プレゼンテーション実習等を通じてコミュニケーション能力を養う。
	情報倫理を身につけ、情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	インターネット、電子メールや携帯電話などの利便性と信憑性・危険性を理解、把握させる。
		著作権保護の重要性を理解させる。
教員の指導力を向上させる。	情報に関する最先端の内容の研究と指導法の研修を継続的に行う。	